

東京外国語大学百周年記念論文集（別刷）

「は」と「が」：中国語を母語とする  
学習者への教授法

望 月 圭 子

1999

## 0 はじめに

本稿の目的は、中国語を母語とする日本語学習者にとって最大の学習困難点の一つである「は」と「が」の相違をいかに説得的・効果的に教授するかを提案することにある。

現在、中国及び台湾の大学における日本語教育の場で用いられている教科書のうち、筆者が入手したもの<sup>1)</sup>には、対応する中国語の文型を提示しながら、「は」及び「が」の用法を説明している教材はない。台湾では、第二外国語としての日本語教育は、高校及び大学で急激な学習者の増大をみせているが、現在用いられている初級・中級の教科書で、圧倒的なシェアを占めているのは、『新日本語の基礎（中国語版）I・II』（1999年、日本海外技術者研修協会編著）である。しかし本教材はその文法解説書の中国語版を含めて、日本語版からの単なる中国語訳にすぎず、学習者の母語である中国語との対応文型を提示するという新たな試みはみられない。一方、中国では、日本で出版された日本語教科書の中国語版を用いることは少なく、中国独自に編纂された教科書を用いることが多い。しかし、中国で独自に編纂された教科書でさえ、対応する中国語の文型を提示したうえでの日本語の文法説明は行われていない。例えば『新编基础日语』（1994、上海译文出版社）85頁では、「は」と「が」の相違を次のように説明している。日本語訳は、筆者による。

「～は」は全文の主題を構成し、その後続く部分は評言（原文では‘述題’）である。評言は主述構造によって構成される場合もある。例

えば、

日本は湿気が多いです。

北京は秋が涼しいです。

大学のキャンパスは緑が多いです。

王さんは背が高いです。

一方、いわゆる「描写」とは、言語文字によって表される客観的事物のさまざまな状況をあらわす。この場合の客観的事物は文中で主語となり、格助詞「が」で表される。描写される事柄は、未知の新しい状況である。

ベルが鳴りました。

日が暮れました、電燈をつけましょう。

雨が降っています。傘を持っていきなさい。

寒い冬がすぎて、暖かい春がやってきました。

「は」と「が」の相違について述べているのは、本書では、この部分のみであるが、「は」は主題、「が」は客観性、未知、新状況といったキーワードで説明されている。しかし、こうしたキーワードは抽象的で、母語の対応文型の例をあげて具体的に説明しなければ、学習者の理解を得ることはむずかしい。

「は」と「が」の用法の相違は、新/旧情報や定/不定を異なる文法形式で表すという普遍的談話原則の日本語における反映であるが、中国語においても、同じ談話原則が、いくつかの文法形式に反映されている。本稿は、中国語において、「は」と「が」によって表される談話原則が、どのような文法形式に反映されるのかを考察し、それを中国語を母語にする日本語学習者への文法教育にどのように役立てるかを提示する。

## 1 中国語の主題

### 1.1 「主語＝主題」説

「は」の説明に必ず用いられる「主題」という術語は、実は、中国語においては主語を指すことが多い。従来、中国語の学校文法（母語話者に対しても、外国人学習者に対しても）では、「中国語の主語は、主題である」と規定してきた。こうした所謂国語教育を受けてきた中国人学習者が、「は」は主題を表す」という説明をうけると、「は」は主題でありかつ主語でもある」という誤解を招きかねない。

中国語学における「主語＝主題」説の発端は、Zhao (1968: 69) に述べられている次の様な叙述にあるようである。

The grammatical meaning of subject and predicate in a Chinese sentence is topic and comment rather than actor and action.

また、中国語学で大きな影響力をもっている朱 (1982: 17) は、次のように述べている。日本語訳は筆者による。

主語は陳述の対象，即ち話し手が言及しようとする話題である。述語は，主語に対する陳述，即ち主語がどうするか，どのようにであるか，或いは何であるかを説明しているのである。

さらに，中学・高校における学校文法体系の提要においても，文頭の名詞句を一律に主語とみなし，「主語＝主題」という立場をとっている。例えば，(1)のような主題文の文頭の主題も，主語とみなしている。

(1) 这件事 我 没 听说 过。

Zhe jian shi wo mei tingshuo guo.

この 事 私 否定 伝聞する 経験態

この事は，私は聞いたことがない。

(1)において，文頭の名詞句「这件事 zhejianshi」は，文法機能からいえば，「この事を聞く」という，「聞く」の目的語である。「这件事 zhejian-

shi」は文頭に移動して談話機能上は主題として機能しているが、目的語という文法機能は不変である。しかし、学校文法においては、文頭の名詞句は一律に主語とみなすから、目的語が主題になっている場合の「这件事 zhejianshi」も、主語ということになる。中国語において、「主語＝主題」という説明がなされてきた理由は、中国語には、「は」に相当する主題標識<sup>2)</sup>や「が」に相当する動作主を示す標識<sup>3)</sup>が存在するものの、主題標識、主格・対格に相当する格標識がつかない場合がほとんどで、主題及び主語には何の標識もつかないのが普通だからである。

しかし、このような中国語の孤立語性があるにせよ、「主語＝主題」説は正しくない。まず、現在の一般言語理論からみても、主題は、談話機能上の概念であるのに対し、主語は述語に対してもつ文法機能上の概念として区別されている。例えば、表1に示すように、(1)文における名詞句を分析する場合、さまざまなレベルが想定される。

(表1)

レベル	分析手段	这件事	我	没听说过
統語論	文法機能	目的語	主語	< 述語 >
意味論	意味役割	対象	経験者	< 述語 >
談話文法	談話機能	主題	< 評言 >	
	新・旧情報	旧情報	< 新情報 >	

表1のような枠組みでは、主語と主題は、それぞれ統語論と談話文法といった互いに自律的なレベルの概念であり、(1)文においては、主語と主題は異なる名詞句が担うことになる。

さらに、中国語では、主語と主題が、異なった振る舞いをみせる言語現象がある。以下、その例を二つあげる。

まず第一に、中国語の再帰名詞「自己 ziji」は、日本語の「自分」と同様、主語を先行詞にとる。次の例をみよう。

- (2) 张 三, 我 在 自己的 房 间 里 看 护 了.  
 Zhangsan, wo zai zi ji de fangjianli kanhu le.  
 張三 私 で 自分 の 部屋 看病する 完了  
 張三は, 私 {は/が} 自分 (=私) の部屋で看病した.

(2)では, 再帰名詞「自己ziji」の先行詞は, 文頭の名詞句, 主題「張三」ではなく, 動詞「看病する」の主語である「私」である。「自分」の先行詞は主語であるという言語現象は, 何が主語かを決定する判断基準となるが, 中国語においても同様に, 主語の判断基準となる。この現象は, 中国語においても主語と主題を区別すべき根拠のひとつとなる。

第二に, 「名詞化 (nominalization)」における主語と主題の振る舞いの相違をみよう。日本語には, 「が/の」交替という現象があるが, 中国語でも, 「主語/主語+属格」の交替という同様の現象がある。例を挙げよう。

- (3) a. 张 三 不 愿意 去 日本.  
 Zhangsan bu yuanyi qu Riben.  
 張 三 否定 願望 行く 日本  
 張三は, 日本へ行きたくない.
- b. [张 三 不 愿意 去 日本] 是 有 道理 的.  
 Zhangsan bu yuanyi qu Riben shi you daoli de.  
 張 三 否定 願望 行く 日本 copula ある 道理 断定の  
語気助詞  
 [張三が日本に行きたくない]のには, 理由があるのだ.
- c. [[张三 的 [不 愿意 去 日本]]] 是 有 道理 的.  
 Zhangsan de bu yuanyi qu Riben shi you daoli de.  
 張 三 属格 否定 願望 行く 日本 copula ある 道理 断定の  
語気助詞  
 [張三の[日本に行きたくない]]のには, 理由があるのだ.

(3a)の単文が主語節となって名詞化されると, (3b)の主語節のようになるが, 主語節の主語は, (3c)のように, 日中両語とも属格を伴って「張三の日本に行きたくないのには」のような「主語+属格+述語」構造に変換

可能である。しかし、主題は、(4)に示すように、こうした変換が不可能である。

(4) a. 日本, 张三 不 愿意 去。  
Riben, Zhangsan bu yuanyi qu.  
日本へは, 張三は行きたくない。

b.\* 日本, [张三 不 愿意 去] 是 有 道理 的。  
Riben, Zhangsan bu yuanyi qu shi you daoli de.  
日本 张三 否定 願望 行く copula ある 道理 断定の  
語気助詞  
\*日本へは, [張三が行きたくない]のには, 理由があるのだ。

c.\* [日本 的 [张三 不 愿意 去]] 是 有 道理 的。  
Riben de Zhangsan bu yuanyi qu shi you daoli de.  
日本 属格 张三 否定 願望 行く copula ある 道理 断定の  
語気助詞  
\*日本 の [張三が行きたくない]のには, 理由があるのだ。

「主語=主題」説によれば、(3a)の文頭の名詞句「张三」も、(4a)の文頭の名詞句「日本」もどちらも主語となるわけであるが、「张三」の場合は属格を伴ってc文のような転換が可能であるのに対し、「日本」の場合は同様の転換が不可能である現象の説明がうまくつかない。日本語においても、中国語においても、主語という文法機能のみが、属格との交替を許すのである。このような現象も、中国語において、主語と主題を区別する根拠となる。

以上みてきたことを要約すると、次のようになる。少なくとも中国において、中国語を母語とする日本語学習者は、従来、中国語の学校文法において、「中国語の主語は主題である」という教育をうけてきている。こうした学習者には、「は」は主題標識で、「が」は主語標識である」という説明は、混乱を招く。こうした混乱を防ぐためには、文法機能を表す主語と、談話機能を表す主題とは、普遍的に別の概念であることを最初に示す

必要がある。この際、中国語でも、再帰名詞の先行詞決定と名詞化における属格との交替において、主語と主題が異なった振る舞いをすることを示すことが有効である。

主語と主題の区別をさらに明確に理解するためには、母語の主題の具体例を示すことが効果的である。次節では、中国語における主題の具体例を「は」と対照させながら挙げる。

## 1.2 中国語の主題構造

### 1.2.1 「象は鼻が長い」型主題構造

このタイプの主題構造における主題は、評言中の述語と文法機能関係をもたない、生成文法の枠組みでいえば、深層構造においてすでに文頭の位置を占めているタイプの主題である。こうした主題構造は、主語と述語に「一致」(agreement)が存在する言語、例えば英語では許されないが、日本語も中国語も、主語-述語間の一致が存在しない<sup>4)</sup>ので、両言語ともに、「象は鼻が長い」型の主題構造が可能である。例をみよう。

- (5) 象 鼻子 长。  
 Xiang bizi chang.  
 象 鼻 長い  
象は鼻が長い。

- (6) 鱼 我 喜欢 鲑鱼。  
 Yu wo xihuan guiyu.  
 魚 私 好きだ 鮭  
魚は私は鮭が好きだ。

この型の主題は、中国語学界では、「二重主語 (double nominative) 文」の「大主語」又は「関係語」(王1956)などと呼ばれ、統語的分析の枠からはみ出た、特殊な成分とみなされてきた。Li and Thompson (1976)で、中国語を「主題卓越言語」(topic-prominent language)と分類した



のも、彼らがこの型の主題構造に特に注目し、「中国語では、主題-評言構造がより基本的な文法構造である」と判断した結果である<sup>5)</sup>。また、Chafe (1976:50) は、この型の主題を「中国語型主題」と呼び、英語には、このような主題を成立可能にするための文法手段が存在しないと述べている。また、彼は、この型の主題は、英語における所謂主題と呼ばれるもの (1.2.2 に挙げる移動によって生じる主題、例えば、This book I already read. の文頭に移動した目的語を担う主題 this book のようなものを指す) とは異なり、対比の意味を全く含まず、評言の叙述内容の枠組みを決定する機能を持っていると述べている。

さて、日本語教育の立場に戻って考えると、この型の主題構造は、日本語にも中国語にも存在するわけであるから、この型の中国語主題文を提示しながら、「象は鼻が長い」型日本語主題構造中の「は」と「が」の用法の相違を説明することは説得力をもつ。ここで、学習者に提示しなければならないのは、「旧情報」対「新情報」という概念である。この型の主題は、「総称」(generic) であることが多いのだが、総称は旧情報を担い、後続の評言は新情報を担うということを認識してもらわなければならない。つまり、次の様な構造をなしていることを認識してもらうのである。

(7)

	象は 象	鼻が 鼻子	長い 長
文法関係		<主語>	<述語>
情報構造	<旧情報>	< 新情報 >	
談話構造	< 主題 >	< 評言 >	

(7) のような構造を認識した上で、日本語においては、文頭の、旧情報を担う主題には「は」が用いられ、評言部分の、新情報を担う主語には「が」が用いられるという説明をすることが効果的である。

## 1.2.2 移動型主題

この型の主題は、述語と何らかの格関係<sup>6)</sup>をもつ名詞句が文頭に移動して主題化した主題である。この型の主題は、英語においても存在する。例をあげよう。

(8) a. This book, I have read.

b. 这本书 我 已经 看 过 了。

Zhebenshu wo yijing kan guo le.

この本 私すでに読む経験体完了体

c. この本は、私はもう読みました。

(8)の場合、文頭の名詞句‘this book/这本书/この本’は、いずれも動詞‘read/看/読む’の目的語であるが、これが主題化により文頭に移動して主題という談話機能を果たしている。

さて、この移動型主題の場合、日本語においては、「は」がつくことによって、格助詞「が」「を」は義務的に削除されるが、実は中国語でも類似の現象がある。中国語には形態的主格・対格が普通存在しないが、動作主を表し、随意的に用いられる「由 you」や、目的語が動詞の前に存在する場合の目的語標識「把 ba」が存在する。こうした前置詞は、その前置詞句が主題化されると、義務的に削除されなければならない。例をあげよう。

(9) a. 运输 问题 由 他们 解决。

Yunshuwenti you tamen jiejie.

運輸 問題 YOU 彼ら 解決する

運輸問題は、彼等が解決する。

b.\* 由 他们 运输 问题 解决。

You tamen yunshu wenti jiejie.

YOU 彼ら 運輸 問題 解決する

(10) a. 我 把 书 看 完 了。

Wo ba shu kan wan le.

私 BA 本 読む 終える 完了体

私は本を読み終えた。

b.\* 把书 我 看 完 了。

Ba shu wo kan wan le.

BA 本 私 読む 終える 完了体

c. 书 我 看 完 了。

Shu wo kan wan le.

本 私 読む 終える 完了体

本は私は読み終えた。

また、主語・目的語以外の随意項につく前置詞の場合も、主題化されると前置詞が削除されなければならない。例を李（1995：362）から引用しよう。

(11)a. 用 大字 笔 写 大字, 用 小字 笔 写 小字。

Yong dazi bi xie dazi, yong xiaozi bi xie xiaozi.

具格 太字 ペン 書く 太字 具格 細字 ペン 書く 細字

太字用の筆で大きな字を書き，細字用の筆で小さな字を書く。

b. 大字 笔 写 大字, 小字 笔 写 小字。

Dazi bi xie dazi, xiaozi bi xie xiaozi.

太字 ペン 書く 太字 細字 ペン 書く 細字

太字用の筆は，大きな字を書き，細字用の筆は小さな字を書く。

(12)a. 关于 这个 问题, 上级 还 没有 具体 指示。

Guanyu zhege wenti, shangji hai meiyou juti zhishi.

について この 問題 上級機関 まだ 否定 具体 指示

この問題について，上級機関はまだ具体的に指示していない。

b. 这个 问题 上级 还 没有 具体 指示。

Zhege wenti shangji hai meiyou juti zhishi.

この 問題 上級機関 まだ 否定 具体 指示

この問題は上級機関がまだ具体的に指示していない。

- (13)a. 他 对 祖国 的 历史 很 有 研究.  
 Ta dui zuguo de lishi hen you yanjiu.  
 彼 に対し 祖国 属格 歴史 とても ある 研究  
 かれは祖国の歴史についてとても研究を積んでいる.
- b. 祖国 的 历史 他 很 有 研究.  
 Zuguo de lishi ta hen you yanjiu.  
 祖国 属格 歴史 彼 とても ある 研究  
 祖国の歴史についてはかれはとても研究を積んでいる.

一般言語学的見地からみると、日中両語において、主題の位置では格標識が削除されなければならない場合が多い、という共通の事実は、主題が統語構造上、特別な位置を占めるということを示唆していて興味深い。日本語教育の観点からみると、(8)～(13)のような中国語の移動型主題の例を示すことによって、学習者は、まず母語における主題を理解し、こうした主題が、日本語では、格助詞が削除された‘名詞句+「は」’という形で表されていると理解できるだろう。

### 1.2.3 「在」存在文

中国語の存在文には、(14)に示すように、情報構造の相違に基づいて、二種類の存在文がある。

#### (14)a. 「在 zai」存在文：旧情報+新情報

「定/旧情報の事物」+「在」+「事物が存在する場所」

你 的 书 在 桌子 上.

Ni de shu zai zhuozi shang.

あなた 属格 本 ある 机 上

君の本は、机の上にある。

b. 「有 you」存在文：文全体が新情報.

「事物が存在する場所」 + 「有」 + 「不定の事物」

桌子 上 有 一 本 书.

Zhuozi shang you yi ben shu.

机 上 ある 一 冊 本

机の上に本が一冊ある.

二種類の存在文の語順を決定しているのは、「旧情報から新情報へ」という談話制約である。「在」存在文の場合は、まず定/旧情報の事物が文頭に来て、新情報を担う存在する場所が文末にくる。この場合、次の(15a)のように、文頭に不定の事物をおくことはできない。一方、「有」存在文の場合、文全体が新情報であり、文末に不定の事物がくる。この場合、次の(15b)のように、文末に定の事物をおくことはできない。

(15)a.\* 一 本 书 在 桌子 上.

Yiben shu zai zhuozi shang.

一冊 本 ある 机 上

b.\* 桌子 上 有 你 的 书.

Zhuozi shang you ni de shu.

机 上 ある あなた 属格 本

英語においても、同様の現象がみられる。この場合も、「旧情報から新情報へ」という談話制約が働いている。

(16)a. Your book is on the desk.

b. \*A book is on the desk.

(17)a. There is a book on the desk.

b. \*There is your book on the desk.

中国語には、「不定の主語は文頭に現れることができない」という厳しい統語制約があり、この統語制約によって、VS語順をとる場合がある。「有」存在文はその一例である。不定主語がとる特殊な文型については、

次節にゆずる。日本語教育の場では、定/不定という概念が、中国語においては、「在」と「有」という動詞の相違と、SV 語順対 VS 語順という語順の差に反映されていることをまず学習者に理解してもらうことが重要である。その上で、定/不定という概念が、日本語においては、「は」と「が」の相違に反映されるということへとつなげる。こうした手順が「は」と「が」への根本的理解につながるはずである。

#### 1.2.4 分裂文

湯 (1981) は、中国語の「分裂文」(cleft sentence) とは、次の様な構造をもつ「是 shi～的 de」文型であるとしている。

(18) 中国語の分裂文：「是 shi～的 de」

前提	是	情報焦点	～	的。
旧情報	焦点標識	新情報		断定の 語気助詞

即ち、元来連辞である「是」が、一文の前提部分と新情報の部分とに分断する談話機能をもつのである。「是」にすぐ後続する成分は、情報焦点を表すので、「是」は、焦点標識と呼ぶこともできる。例をあげよう。例文中の下線部は、情報焦点を表す。

(19)a. 張 國榮 兩年 前 在 東京 舉行 演唱會。

Zhang Guorong liangnian qian zai Dongjing juxing yanchanghui.

張 國榮 二年 前 処格 東京 行う コンサート

レスリー・チャンは、二年前東京でコンサートをした。

b. 是 張 國榮 兩年 前 在 東京 舉行 演唱會 的。

Shi Zhang Guorong liangnianqianzai Dongjing juxing yanchanghui de.

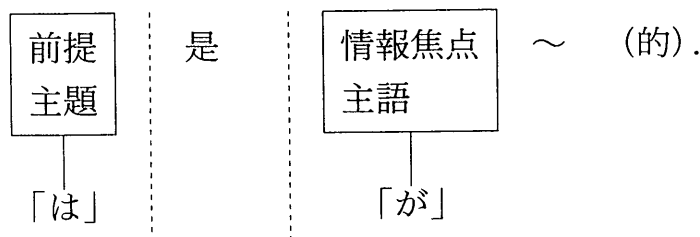
焦点標識 張 國榮 二年 前 処格 東京 行う コンサート 断定の  
語気助詞

レスリー・チャンが、二年前東京でコンサートをしたのである。

- c. 張 國榮 是 兩年 前 在 東京 舉行 演唱會 的。  
 Zhang Guorong shi liangnian qian zai Dongjing juxing yanchanghui de.  
 張 國榮 焦点標識 二年 前 処格 東京 行う コンサート 断定の  
語気助詞  
 レスリー・チャンは、二年前に、東京でコンサートをしたのである。
- d. 張 國榮 兩年 前 是 在 東京 舉行 演唱會 的。  
 Zhang Guorong liangnian qian shi zai Dongjing juxing yanchanghui de.  
 張 國榮 二年 前 焦点標識 処格 東京 行う コンサート 断定の  
語気助詞  
 レスリー・チャンは二年前に、東京で、コンサートをしたのである。

さて、この「是 shi～的 de」構文がどのように「は」と「が」と対応するかを考えよう。「是」の前にくる名詞句は、前提であり旧情報であるから、主題である。日本語では、これを「は」で表わす。一方、「是 shi」にすぐ後続する名詞句が主語の場合、それは情報焦点であるから、日本語では「が」で表される。このことを図式化すると(20)のようになる。

(20) 「是～的」構文と「は」と「が」



学習者には、一般に、「是 shi」の前の名詞句は主題で、日本語では「は」がつく」と説明してよいだろう。しかし、注意しなければならないのは、焦点標識「是」がコピュラ文の主語の前について、(21)のように「是」が二つ生起する場合である。

- (21) 是 我 是 学生。  
 Shi wo shi xuesheng.  
 焦点標識 私 copula 学生  
 私が学生です。

この場合、最初の「是」は焦点標識として働き、二つ目の「是」は本来の用法である連辞として働いている。この場合は、焦点標識の直後の「我」は、情報焦点であるから、連辞「是」の前にあるけれども、「は」ではなく「が」がつく。

### 1.2.5 場面設定語

文頭の場所詞・時間詞は、後続する陳述の場面設定の役割をもち、後続部分全体をそのスコープにとりこむ文副詞句として作用する。これを「場面設定語」(scene setter)と呼ぶ。この場面設定語も、一種の主題である。例をあげよう。下線部分が場面設定語である。

(22)a. 上海 我有 熟人。

Shanghai wo you shuren.

上海 私 いる 親しい人

上海には、親しい人がいる。

b. 这个 学期 我们 星期五 下午 上 音乐 课。

Zhege xueqi women xingqiwu xiawu shang yinyue ke.

この 学期 私たち 金曜日 午後 授業にでる 音楽 授業

今学期は、私たちは金曜日の午後音楽の授業をする。

文頭にある場面設定語は、中国語では「在」等の処格前置詞が削除され主題となり、日本語では「は」がついて主題となる。

## 2 中国語の不定主語及び新情報を担う主語

前節では、中国語の主題と「は」を対照させながら、「は」の用法を、どのように中国語の対応文型と対照させながら教えれば効果的かを考えた。本節では、中国語において「が」と対応する、不定主語及び新情報を担う主語がどのような文法形式をとるのかを考察する。久野(1973)の枠組による、「中立叙述」と「総記」の用法に分けて、各々対応する文法形式を考える。



## 2.1 中立叙述に対応する文型

## 2.1.1 「有」存在文

1.2.3では、「は」と対応する「在」存在文を中心に述べたが、「在」存在文とペアをなす存在文が「有」存在文である。(14)を再録しよう。

## (14)a. 「在 zai」存在文：旧情報+新情報

「定/旧情報の事物」+「在」+「事物が存在する場所」

你 的 书 在 桌子 上.

Ni de shu zai zhuozi shang.

あなた 属格 本 ある 机 上

君の本は、机の上にある。

## b. 「有 you」存在文：文全体が新情報。

「事物が存在する場所」+「有」+「不定の事物」

桌子 上 有 一 本 书.

Zhuozi shang you yi ben shu.

机 上 ある 一 冊 本

机の上に本が一冊ある。

「有」存在文では、不定の主語が動詞「有」の後ろにおかれている。この不定主語は、日本語では、中立叙述の「が」でマークされる。なぜなら、「有」存在文は、文全体が新情報である場合に用いられるからである。

さて、「在」存在文の主語が常に主題かという点、例外的現象がある。

## (22)a. 有 一 本 书 在 桌子 上.

You yi ben shu zai zhuozi shang.

ある 一 冊 本 ある 机 上

ある本が一冊机の上にある。

## b. 有 几 本 书 在 桌子 上.

You jiben shu zai zhuozi shang.

ある 何冊 本 ある 机 上

ある本が何冊か机のうえにある。

c. 有 许多 书 在 桌子 上.

You xuduo shu zai zhuozi shang.

ある たくさん 本 ある 机 上

ある本がたくさん机の上にある。

湯 (1988: 112) は, (22)において「在」存在文の主語は, 話し手のみが知っている「特定」(specific) 定名詞句であるから, 「在」存在文の文頭にくることができる」と述べている。しかし, 筆者の語感では, こうした「特定」名詞句には, 「が」がふさわしい。中国語では, 不定名詞句が文頭におかれる場合, 「不定名詞句は文頭におくことができない」という制約をのがれるために, 「有」というダミーの動詞を不定名詞句につけて, 湯 (1988) がいう「特定」名詞句に変換する。しかし, 日本語教育の場では, 「有」+不定名詞句は, 「が」に相当する, という説明で十分だろう。

### 2.1.2 出現・消滅文

「有」存在文と同様に VS 語順をとる中国語の構文として, 出現・消滅を表す文がある。この出現・消滅文を対応する判断文と共に例をあげよう。

(23)a. 前面 来 了 两个人。

Qianmian lai le lianggeren.

前 来る 完了体 二人

前から人が二人来た。

b. 那 两个人 从 前面 来 了。

Na lianggeren cong qianmian lai le.

あの 二人 起点格 前 来る 完了体

あの二人は前から来た。

(24)a. 昨 天 走 了 三个 客人。

Zuotian zou le sange keren.

昨日 去る 完了体 三人 客

昨日お客さんが三人帰った。

b. 那 三个 客人 昨天 走 了.

Na sange keren zuotian zou le.

あの 三人 客 昨日 去る 完了体

あの三人のお客さんは昨日帰った。

(23a) (24a)は、共に出現・消滅文で、(23b) (24b)は共に判断文である。前者と後者の構造は、それぞれ(25a) (25b)のように一般化される。

(25)a. 出現・消滅文

<u>場面設定語 (場所・時間)</u>	+	<u>移動動詞</u>	+	<u>不定主語</u>
前置詞はつかない				「が」に相当

b. 判断文

<u>定の主語 (=主題)</u>	+	<u>場所詞・時間詞</u>	+	<u>移動動詞</u>
「は」に相当		前置詞がつく		

(25a)対(25b)のような対比を用いながら、定/不定の概念を学習者にまず中国語において認識してもらい、その上で「は」と「が」の用法を教えるのが効果的である。

### 2.1.3 気象文

文全体が新情報であるような気象を表す文も、「有」存在文、出現・消滅文と同様、VS語順をとり、不定主語は文末におかれる。この文末の不定主語が日本語の中立叙述における「が」名詞句に相当する。対応する判断文と対比させながら、現象文としての気象文の例をあげよう。

(26)a. 下 雨 了!

Xia yu le!

降る 雨 perfect

雨が降ってきた!

- b. 雨 已经 停 了。  
 Yu yijing ting le.  
 雨 すでに やむ 完了体  
 雨はもうやんだ。
- (27)a. 出 太陽 了!  
 Chu taiyang le!  
 出る 太陽 perfect  
 日がさしてきた!
- b. 太陽 还 高 挂 在 天空。  
 Taiyang hai gao gua zai tiankong.  
 太陽 まだ 高く かかる 処格 空  
 太陽はまだ空高く照っている。

## 2.2 総記に対応する文型

久野（1973）で提出された総記の「が」の用法とは、「が」名詞句が「新情報＋旧情報」の情報構造中，新情報の位置におかれ，焦点の意味をもつ場合である。中国語において，総記に対応する文法形式として，前出の分裂文と「由 you」前置詞句がある。

### 2.2.1 分裂文

前出の分裂文とは，焦点標識「是 shi」が後続する成分を焦点化する構造である。前述のとおり，日本語教育の場では，焦点標識「是」に後続する主語は，「が」でマークされると学習者に提示すればよい。また，初級段階では，日本語の疑問詞に「は」をつけるという誤用（例えば，「誰は田中さんですか」のような誤用）が多いようだが，これも，「是」と「が」との対照による教授が誤用を防ぐ一助になる。なぜなら，中国語でも，(28)に示すように，焦点標識「是」は疑問詞の前におかれ，疑問焦点を明確化できるからである。

- (28) a. 是 哪位 是 黎明 先生?  
 Shi nawei shi LiMing xiansheng?  
 焦点標識 どなた copula 黎明 さん  
 どなたがレオン・ライさんですか?
- b. 是 哪一个 最 好吃?  
 Shi nayige zui haochi?  
 焦点標識 どれ 一番 おいしい  
 どれが一番おいしいですか?
- c. 是 什么时候 方便?  
 Shi shenmeshihou fangbian?  
 焦点標識 いつ 便利  
 いつが都合がよいですが?
- d. 是 哪里 好玩?  
 Shi nali haowan?  
 焦点標識 どこ おもしろい  
 どこがおもしろいですか?

### 2.2.2 「由」前置詞句

「由you」は動作主を表す随意的につく前置詞であるが、これが総記の「が」と同様の働きをすることがある。主題の位置では、「由」は必ず削除されるので、「由」がついた名詞句は「が」に対応する。例を呂(1980)より挙げる。

- (29) a. 运输 问题 由 他们 解决。  
 Yunshu wenti you tamen jiejie.  
 運輸 問題 YOU 彼ら 解決する  
 運輸問題は、彼等が解決する。
- b. 专机 由 三架 战斗机 护航， 在 飞机场 降落。  
 Zhuanji you sanjia zhandouji huhang, zai feijichang jiangluo.  
 専用機 YOU 三機 戦闘機 護衛する 処格 飛行場 着陸する  
 専用機は、三機の戦闘機が護衛し、空港に着陸した。

c. 各国 运动员 由 国家 体委 负责人 陪同,  
 Geguo yundongyuan you guojia tiwei fuzeren peitong,  
 各国 選手 YOU 国家 体育委員会 責任者 つきそう

游览 了 八达岭 和 十三陵.  
 youlan le Badaling he Shisanling.

観光する 完了体 八達嶺 と 十三陵

各国選手は、国家体育委員会の責任者が同行して、八達嶺と十三陵を観光した。

(29)の各文に共通しているのは、いずれも目的語が主題化された主題文であることと、動作主が「由」でマークされているという点である。これらの文では、「由」は全て「が」に対応している。

### 2.3 まとめ

以上、「が」に対応する中国語の文法形式を考察した。まず、文全体が新情報である、中立叙述に対応する文型として、VS 構文があげられる。即ち、不定又は新情報を担う主語が文末にくる文型である。具体的には、「有」存在文、出現・消滅文、気象文があげられる。この文型の存在は、「不定主語は文頭におくことができない」という中国語の統語制約とも深く関係しているが、「場面設定から事物へ」という普遍的認知順序が語順に反映されているともいえる。第二に、総記に対応する文法形式として、分裂文、「由」前置詞句があげられる。前者は、焦点標識「是」によって後続成分が焦点化される構文であり、後者は動作主を表す前置詞「由」が主語についた場合、焦点の意味が生じるという現象である。

以上のような中国語の対応表現を用いて、「が」の用法を教授することは、「が」が新情報を担うという根本的な理解へ大きな効果をもたらすであろう。

### 3 おわりに

中国語には、「は」と「が」に対応する、義務的に名詞句につく前置詞が存在しない。しかし、「は」と「が」の用法を決定している普遍的談話原則は、中国語においても別の文法形式として反映される。本稿では、中国語の主題構造と、不定主語や新情報を担う主語の文法形式を考察したが、母語との対照に基づいて日本語の「は」と「が」を教えることで、効果的な学習が期待できるはずである。

第二言語習得においては、学習者が学習言語の文法事項に根本的理解を得たとき、大きな喜びを得、学習意欲を高める。母語の対応文法形式が提示されることは、外国語の文法教育に不可欠である。そのためには、言語教育のための対照研究が必要である。近年、中華圏では日本語学習者が急増し、また日本でも第二外国語教育としての中国語学習者が増大している。こうした背景のなか、日本語教育及び中国語教育の両方において、日中語の対照研究の需要はますます増してきている。対照研究において重要なのは、二言語間の対照にとどまるのではなく、言語一般の普遍的原理との関連を常に考えることである。本稿は、普遍的談話原理が、日中両語においてどのように反映されるかという視点から、両言語を対照し、対照がどのように日本語学習者に貢献できるかを考察した。本稿が日本語教育への一助になれば幸いである。

#### 注

- 1) 現在入手した中国及び台湾で出版された日本語教科書は、以下のとおりである。
  - ① 高等学校教材『日语』（第一～第四冊）1981，上海外国语学院日语教研室編，上海译文出版社。
  - ② 高等学校教材『新编基础日语』（第一，第二冊）1994，孙宗光他編著，上海译文出版社。

- ③『新日本語の基礎（中国語版）I・II』1990，日本海外技術者研修協会編著，台北：大新書局。
- ④『新日本語の基礎・文法解説書（中国語版）』1992，日本海外技術者研修協会編著，台北：大新書局。
- ⑤『進學日本語初級I』（『進学する人のための日本語初級I』の中国語版），1996，国際学友会日本語学会著，台北：大新書局。
- ⑥『日本語I』1998，東京外国語大学附属日本語学校著，台北：大新書局。
- 2) 「关于guanyu」「至于zhiyu」という，「～に関しては」という意の主題標識が主題の前につくことがあるが，義務的ではなく，随意的である。英語の‘According to~/ As for~’に相当する主題標識である。
- 3) 前置詞「由you」は，動作主を示す標識で，焦点の「が」に相当する。
- 4) 日本語において，尊敬語化は，主語に対してのみおこることから，日本語においても，尊敬語化において，主語-述語間の一致が存在するという主張もあるが，本稿では，日本語には所謂一致が存在しないと考える。
- 5) Li and Thompson (1976) は，自然言語は次の四つの類型に分類可能としている。
- ①「主語が卓越した」(subject-prominent) 言語：印欧語
  - ②「主題が卓越した」(topic-prominent) 言語：中国語等
  - ③「主語と主題共に卓越した」(subject-prominent and topic-prominent) 言語：日本語等
  - ④「主語と主題共に非卓越的」(neither subject-prominent nor topic-prominent) 言語：タガログ語等。
- 筆者は，中国語が「主題卓越言語」とみなされている点には賛同しかねる。なぜなら，第一に，中国語には確かに主語標識が存在しないが，主語設定の根拠として，先に述べた再帰名詞の先行詞決定及び属格との交替が，日本語の場合と同様存在するからである。第二に，後にみるように，日本語と中国語の主題構造は，義務的主题標識（日本語の場合は「は」）の有無という相違を除いては，全く平行する構造であるからである。また，異なるレベルに属する主語と主題を以って言語の類型化をはかることにも疑問が生じる。
- 6) ここでいう格関係とは，形態的格ではなく，生成文法の枠組みでの，抽象格と，随意項である与格・具格・起点格等を指している。中国語では，主格・対格は特殊な場合（動作主を表す「由you」や前置した目的語をマークする「把ba」といった前置詞がつく場合）を除き，形態格をもたないが，それでも，抽象的な主格・対格を述語から付与されていると考えられる。即



ち、抽象格とは、言語の形態論的類型にかかわらず、普遍的に存在すると考えられる格のことである。

#### 参考文献

- Chafe, M. L. 1976. "Givenness, Contrastiveness, Definiteness, Subjects, Topics, and Point of View.", in C. N. Li (ed.) *Subject and Topic*. 22-55. New York: Academic Press.
- 久野暲 1973. 『日本文法研究』大修館書店.
- Li, C. N. and S. A. Thompson. 1976. "Subject and Topic: A New Typology of Language" in C. N. Li (ed.) *Subject and Topic*. 457-489. New York: Academic Press.
- 李一平 1995. 『日中比較語法』台南：大行出版社.
- 呂叔湘 1980. 『現代漢語八百詞』北京：商務印書館.
- 望月圭子 1986a. 「漢語的主題結構」, 『中國語學』233号. 日本中國語学会.
- 望月圭子 1986b. 「主題のハイエラキー」, 『中國語』11月号. 東京：大修館書店.
- 望月圭子 1987. 「漢語主題的分類類型」, 『漢語學習』第2期, 8-11. 吉林：延邊大學.
- 望月圭子 1993. 「場所に関わる「に」と「で」—中国語との対照から—」, 『松田徳一郎教授還暦記念論文集』370-381. 東京：研究社出版.
- 野田尚史 1996. 『「は」と「が」』(新日本語選書1) 東京：くろしお出版.
- 湯廷池 1981. 「國語分裂句、分裂變句、準分裂句的結構與限制之研究『語言學與語文教學』109-206. 臺灣學生書局.
- 湯廷池 1988. 「國語語法與功用解釋」, 『漢語詞法句法論集』105-147. 臺灣學生書局.
- 王了一 1956. "主語的定義及其在漢語中的應用", 『語言學習』1月号, 21-25.
- Zhao, Yuanren. 1968. *A Grammar of Spoken Chinese*. Berkeley and Los Angeles: University of California Press.
- 朱德熙 1982. 『語法講義』北京：商務印書館.

## 要 旨

望月 圭子

本文的主要目的在於提議如何有效地對以漢語為母語的日語學習者進行「は」和「が」的區別教學。為此，筆者曾對在中國以及臺灣被廣泛使用的日語學習教材進行了一番調查，結果發現其中沒有一本是經由與漢語的句型對照來說明日語裡「は」和「が」的不同。一般認為「は」和「が」在用法上的區別與「新／舊信息」以及「定指／無定」的區別等普遍性的言談規則有密切關係，然而相同的言談規則在漢語的場合則表現在主題結構、「是」字句、「有」字句、存現句和「由」介詞組等句法形式上。因此，筆者認為透過漢語裡的對應句型來說明上述的言談規則可以幫助以漢語為母語的學習者進一步了解日語裡「は」和「が」的根本上的區別。